

## 敗戦後80年を迎えて

大島博幸（委員長/福島主のあしあととキリスト教会）

敗戦後80年を迎えた8月15日の朝、地元福島市の「福島県護国神社」に行ってきました。福島市に来て8年になりますが、福島県護国神社の境内地に入るのは初めてです。この護国神社は、福島市では桜の名所で、桜の時季には神社の駐車場に屋台が出るにぎやかな場所です。



福島県護国神社  
は1879年10月4  
日に、「福島県内3  
カ所（相馬・三春・

若松）の招魂社の御霊を合祀し、信夫山の地に招魂社として創建された」とありました。この「由緒」の看板は、1980年10月16日に福島ライオンズクラブによって建てられました。今年の8月15日は、敗戦80年ということで、東京に合わせてでしょうか、正午より「終戦記念・英霊感謝祭」が行われるとありました。また境内地には、その他の案内板、「さざれ石の巖」が日の丸と国家「君が代」と記された新しい石板と共にあり、悠久平和の碑等、戊辰戦争からアジア・太平洋戦争までで国のために戦死者6万9千余の「英霊」を祀っているとしています。

全国には「護国神社」が2府1道43県に50あります。概ね1県1護国神社なのですが、北海道には3つ、兵庫県と広島県には2つの護国神社があります。最近では、各地方で、様々な形での護国神社との関りが行われています。小中学生が、平和学習のために護国神社に行くということも聞いています。全国規模では、「平和」を題材に、高校の書道部に護国神社へ奉納書道の活動が行われています。福島でも市内の複数の高校の書道部が書を奉納したことが報じられました。福島県では震災からの復興の具体的表れとして、各地域での「お祭り」の再開が大きく報じられています。それが町の伝統の回復、復興からの回復として言われます。神道祭儀が「伝統」として強く意識されるように促されているように感じます。そうした「伝統」は同時に皇室行事報道にもなっています。また「伝統」と共に、日常生活のさまざまな場面で「日の丸」、「君が代」、「元号」の波が私たちに押し寄せています。近現代の各時代を元号で区分することが日常化しています。スポーツや様々な行事に「日の丸」が登場し、「日の丸」を見上げつつ、胸にこぶしを当てて「君が代」を歌う姿が当たり前のように映し出されます。教会の中でも、「それって昭和じゃん」とか「昭和っぽいよね」などと言っていないでしょうか。知らず知らずに、あちら側の波に飲み込まれて、意識しないであちら側の様々な動きに加えられていることになります。



使徒言行録 11 章 26 節には、「このアンティオキアで、弟子たちが初めてキリスト者と呼ばれるようになったのである。」とあります。キリストを思い、キリストに従う中で「キリスト者」と呼ばれるようになったことを覚え、私たちが時代の波に抗い、キリストに従う者となりたくと願います。「キリスト者として苦しみを受けるのなら、決して恥じてはなりません。むしろ、キリスト者の名で呼ばれることで、神をあがめなさい。」

(ペトロの手紙一 4 章 16 節)

※「各県の護国神社一覧」と検索してみてください。各道府県の護国神社所在地が分かります。

## 「西田発言と天皇制」

立田 卓也 (委員/松山西キリスト教会)

多くは一つの事柄で説明ができると思う。ヤマト (日本) の琉球 (沖縄) に対する「植民地主義 (植民地支配、国内植民地)」が続いているということ。それは、1609 年の薩摩侵攻による琉球支配から始まり、1879 年「ヤマト」政府による「琉球処分」。戦中、「国体」維持のための捨て石とさせられた沖縄戦。戦後の天皇メッセージによる琉球列島のアメリカへの売り渡し (領土の分割)。地方自治を侵害し続けている偽りの「復帰」。国連の人種差別撤廃委員会で何度も勧告を受けても一向に認めようとしない琉球先住民族の権利を奪っているのは、国民の 8 割が賛成する日米安保体制維持が理由。どれだけ沖縄の人々に基地からの被害が起きようが、押し付けられる。どれもこれも日本が沖縄に強いてきた植民地主義の姿だ。

この植民地主義を支える思想、～ヤスクニ思想 (天皇制、皇国史観)～が、「沖縄戦の実相」を書き

換えよう (5/3 西田発言) と、もしくは“白塗り”しよう (6/4-5 天皇一家来沖)、あの手この手で入り込んでいる。とどめは、スピ系を装ったアーティスト集団が、礎に刻まれた戦没者達は「尊い犠牲」であり、市民を守ってくれた日本兵に感謝だと発言し、平和の礎がある県平和祈念公園内でピースウォッシュの音楽コンサート (7/5) をやってのけてしまう (当初後援予定をしていた行政や県内団体はイベントの主旨が知られるにつれ、反対世論も受け、取り下げた)。



沖縄「ひめゆりの平和祈念資料館」前の碑

支配者性に気づかない私たちヤマトンチュである。「西田発言」が私たちの中にあると言わざるをえないし、そうでないのなら私たちヤマトンチュはこれらの言行に怒りとともに、悔い改めの証として、私たちが書き換えまた書き換えようとしている「自分たちが納得できる歴史」を、体験者とその後の人たちの生きてきた「沖縄戦の実相」へと、更新していくしかない。

勿論、全ての沖縄戦の実相は分かりようがない。加害者は口をつぐみ、「ありったけの地獄を集めた」体験をさせられて命を奪われていったその人々の姿は想像するしかない。それでも、遺骨を掘り起こし続ける人たちが居る。継承しようと日々平和ガイドを務める人たちが居る。総理に向かって「二度と

沖縄を戦場にするな」と声をあげる人が居る。真実を求める～真に平和を求める～沖縄の人たちが居られる。そうして今年もまた、新たな証言が広く私たちに告げられている。

6月22日の沖縄の新聞紙面に、牛島満司令官の辞世の句とされてきたものが、実は書き換えられていたとの記事が出た。大本営がこの句の、「田草(牛島自身)」を「青草(臣民)」に、「春ヲ念ジツツ」(希望を持ちつつ自らが死にゆく惜別の情との解釈)が「春に甦らなむ」(国民がもう一度立ち上がるようにとの熱望)へと書き換えた目的は、戦意高揚・戦争継続を企てのものだ。同時に戦地から送られてきた日本軍劣勢の状況も書き換えて報じていたという。

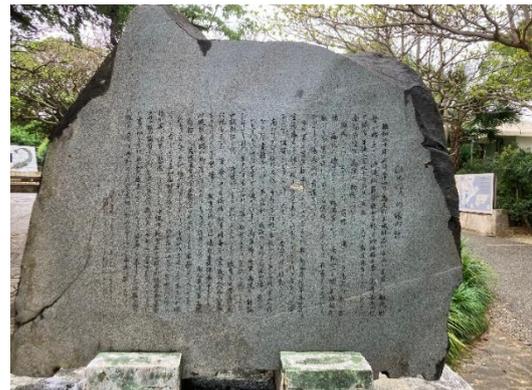
また、1960年に陸自幹部学校で作った沖縄戦の資料には、日本軍第32軍が起こした住民虐殺などの「蛮行」が指摘され、そこでは「皇軍の慣れの果てか思わせる程の事例」だとなつづられていた。沖縄戦の実相が「修正」される前の、自分たち皇軍の実の姿を認識していた。

だから彼らは“書き換えて”いることを知っているし、これを今この時点で改めないことには明確な目的がある。それはかつての日本帝国・天皇国家への回帰。背後にアメリカが居るとはいえ、現在の台湾有事と喧伝されるこの国の軍事態勢強化とは、見方によっては、明治期150年前から続くアジアへの覇権主義からの続きだ。この国は変わっていない。

西田発言後、機会を得てひめゆり平和資料館を訪ねた折、後ろから偶然にも京都からの修学旅行生たちが入ってきた。学生たちに今回の件をよっぽど問おうかと思ったが、閲覧が遅れ気味だったのだろうか集団に、先を行っていた教師が残り時間の延長を

告げに来た時、無性に腹が立った。大人であるあなた達教師が、権力に抗せず、保身のために、子どもたちを戦場に送った／送ろうとしているんじゃないか。次世代を導く責任を負う大人の姿とは、顔を泣きはらしながら最後尾にこの館から出てくることではないのか…。

私は早くこの「支配者」の顔を変えたい。



ひめゆりの塔の記

## 【新聞記事からⅠ】

### ■ひめゆりの塔の展示は「ひどい。歴史の書き換えだ」

神道政治連盟県本部と県神社庁、日本会議県本部でつくる実行委員会は憲法記念日の3日、那覇市内でシンポジウムを開いた。自民党の西田昌司参院議員が講演し、過去に見学した糸満市のひめゆりの塔の展示内容を挙げ「ひどい。歴史の書き換えだ」と述べた。西田氏は戦後の教育は間違っており「でたらめだ」と主張。「何十年前前にひめゆりの塔を訪れ説明を読んだが、日本軍が入ってきてひめゆり(学徒)隊が死んだ。そして米国が入ってきて沖縄が解放されたとの文脈で書かれていた」と話した。その上で、旧日本軍を念頭に「亡くなった方は救われない。歴史を書き換えられるとこういうことになってしまう」と発言した。また、「沖縄の地上戦の解釈はかなりむちゃくちゃな教育になっている」とも言及。「自分たちが納得できる歴史をつくらないといけない」と訴えた。

(沖縄タイムス5/4)

### ■【記者のコラム】「ピースウォッシュ」に触れて

恥ずかしながら、「ピースウォッシュ」という言葉を知らなかった。戦争や人権侵害という加害の歴史を直視せずに、平和や祈りやら歌によって自らの立場を正当化す

る行為を指すらしく、最近生まれた造語だ。7月上旬に沖縄県糸満市の平和祈念公園で開かれたコンサート「魂(ちむ)かながな祭」を取材してこの言葉を知った。主催は物部彩花氏が代表理事の一般社団法人「和音」。「戦後80年・24万人の平和への祈り」と冠が付いていた。団体は県庁で記者会見を行い、本紙にもコンサートを告知する記事が載った。

だが、市民の一部は物部氏に疑いの目を向けていた。「ヤマトのスピリチュアル系アーティストが沖縄の人々が大切にしている場所で戦没者を利用している」。最初に声を上げたのは、東村のチョウ類研究者の宮城秋乃さんである。事前のコンサートの告知動画で物部氏の発言が沖縄の住民が捨て石にされたことを「喜び」と表現したことを問題視。宮城さんはすぐに「X」(旧ツイッター)などに投稿。すると中止を求める署名活動が起こり、コンサートの後援を決めた沖縄県、糸満市、平和祈念財団、エフエム沖縄は相次いで後援を取り消した。だが、会場は平和祈念公園のままだった。宮古島市の石嶺香織さんらが公園の使用取り消しを県に何度も求めたが、公園の使用許可が取り消されることはなかった。

そうして7月5日の本番。公園の芝生広場のステージで目に映ったのは物部氏と「和音合唱隊」約200人の楽しそうな表情だった。耳に届いたのは気持ちよさそうな歌声だった。正直、圧倒されそうな声量だった。

そんな時だ。歌声の合間に聞き覚えのある声が数十メートル離れた献花台の方から聞こえてきた。「おきなわを返せー!」

「返せ!」「おきなわを返せー!」「返せ!」

声の主は宮城さんだった。沖縄の本土復帰運動の中で歌われていた「沖縄を返せ」だった。もう一曲、サザンオールスターズの「平和の琉歌」も何度も歌った。声を張り上げていた。そのうち、警察官が来た。それでも声を止めない。20分くらいは歌っただろうか。最後は4人の警察官に手足を抱えられて排除された。

宮城さんが排除された後、今度は観客席のすぐ隣で、ステージに向かってまっすぐ指を差し続ける女性が現れた。指先は小刻みに震えていた。「平和なんて言うな」「ピースウォッシュ!」

女性は、開催中止を求める市民の一人、比嘉マリアさんだった。比嘉さんは子どもたちとのキャンプを早めに切り上げて会場に駆けつけた。比嘉さんも警察に囲まれた。そのうち、比嘉さんの声をかき消そうと、出演者の一人が比嘉さんの後ろから歌い始めた。和音関係者の大柄な男性が比嘉さんの前に立ち踊り出した。沖縄の悲痛な声をつぶして、本人たちは歌声を楽しんでいる。なんとグロテ

スクな光景だったのだろうか。終わってから、比嘉さんに話を聞いた。「まだ戦没者の遺骨が残る土地の上で、ダンスをしているのが許せなかった」

物部氏はコンサートの冒頭、「尊い命をささげられた24万余りの御霊の皆さま、私たちはあなた方のみ心と美名を無にせぬよう深い感謝とともにその尊き御霊に祈りをささげます」と語りかけていた。戦没者は命をささげたわけではなく、奪われたのである。そもそも、このコンサートは本当に平和への祈りをささげたのだろうか。沖縄の悲しい史実を自分たちに都合良く上書きしたかっただけではなかったのだろうか。「ピースウォッシュ」を使う機会が無くなることを望む。(沖縄タイムス8/17)

### ■牛島司令官の辞世の句、日本軍中央が改ざん

沖縄戦を指揮した日本軍第32軍の牛島満司令官が自決する前の1945年6月18日に大本営に送った「辞世の句」が、軍中央によって書き換えられていたことが21日までに分かった。書き換えは本土決戦へ向けた戦闘継続と国民の戦意高揚を図るのが目的だった。沖縄国際大非常勤講師の吉川由紀さんが国立公文書館アジア歴史資料センターが公開している暗号電報の訳文などから確認した。牛島司令官が書いた辞世の句は「秋ヲモ待タデ枯レ行ク島ノ田草ハ帰ル御国ノ春ヲ念ジツツ」で「田草(雑草)のような存在の私は先に死んでいくが、この先、日本が戦争に勝ち、わが国が安泰になることを願う」という意味の内容だった。それが、大本営発表を受けた26日付の新聞各紙では、田草が「青草」に書き換えられていた。青草は「臣民」の意味で、さらに「御国ノ春ヲ念ジツツ」が「皇国の春に甦らなむ」と改変されたことで「天皇の臣民に再び立ち上がってほしい」という徹底抗戦を呼びかけるものになった。(沖縄タイムス6/22)



沖縄：平和の礎

「札幌平和祈禱集会」案内から  
「軍事力で 平和な未来は 築けない」  
浦瀬佑司（委員／札幌バプテスト教会）

2025年の札幌の8.15集会は、日本キリスト教団岩見沢教会の大川清牧師（元岩国教会牧師）を迎えて、米軍基地の町の課題を聞きながら、平和について祈りあいます。

大川岩見沢教会牧師からは、「米軍再編により岩国基地（山口県）は拡張強化を続け、岩国市の広大な土地を占有し、現在140機（米軍機110、自衛隊機30）もの戦闘機が飛び交い、米軍関係者1万人（岩国市人口約13万人）が暮らし、日常的に戦闘機の爆音や米兵の起こす事件・事故に市民は脅かされ続けてきました。

不平等な日米地位協定によって米兵たちは守られ、市民が泣き寝入りを強いられるのを何度も経験してきました。

今、更なる「日米軍事同盟」によって、米国と共に再び戦争への道を突き進もうとしています。憲法9条のもとにある国として「軍事力によらない平和」を世界に訴えていくのか、私たちの国は大きな岐路に立たされています。

掛けがえのない一人ひとりの命が奪われてしまわないように、また奪うことのないように、戦争に加担する軍事力の強化に対して共に声を上げていきたいと思えます。」とのメッセージを頂いています。

基地の問題は、岩国だけではなく、横須賀、厚木、沖縄など日本国中にある問題であり、それぞれに大きな課題を抱えています。米軍の問題だけではなく、自衛隊の基地周辺におけるドローン飛行禁止など、住民の自由権制限問題でもあります。課題についておかしい者はおかしいと指摘しないことが戦争に繋がる可能性があることを考えながら、8.15集会を迎えようとしています。

2025年 戦後80年の8・15  
～各地の集会報告～

北海道

●盧溝橋事件から88年 第39回7・7平和集会

・日時：7月7日(月)18:00

場所：かでの2・7 大会議室

・講師：本庄十喜さん（北海道教育大学准教授）

・テーマ：「戦後80年」の戦争責任

～手放してしまいそうなものを繋ぎとめるために

・参加者の声：教育大「1年生、どうやって戦争責任を考えるのだろう」「おじいちゃんの体験を聞く」「医学の人間にとっても731部隊の構成員が罰せられることなく医学の中枢に残った」

●8・15日札幌平和祈禱集会

・主催：札幌キリスト教連合信教の自由を守る委員会

・日時：8月15日(金)18:00

・場所：北海道クリスチャンセンター2Fホール

・テーマ：「軍事力で平和な未来は築けない」

・講師：大川清さん

（日本キリスト教団岩見沢教会牧師、元岩国教会牧師）

※岩国基地の状況から

北関東

●8・15集会

・日時：8月9日(土)10:30

・場所：大宮バプテスト教会・ZOOM

・テーマ：「クルドヘイトの現状と闘い

～社会が抱える問題としてのヘイト 川口・蕨～

・講師：師岡康子さん（弁護士）

西関東

●平和祈禱会

・主催：西関東バプテスト連合社会委員会

・協力：日本バプテスト連盟日韓・在日連帯特別委員会

・日時：8月31日(日) 13:30

・場所：ZOOM

・テーマ「隣人となるか、友人となるか 難民・移民 なかまのいのち協働基金がめざす日本社会と教会」

・ゲストスピーカー：森小百合さん

（外キ協「難民のいのち基金」運営チーム）

東京

●8・15平和祈禱会

・日時：8月15日(金)7:30

・場所：千鳥ヶ淵戦没者慰霊墓苑

・説教：福嶋揚さん（神学者）

## ●8・15 東京集会

- ・日時 8月15日 場所：四谷新生教会
- ・講師：崔善恵さん
- ・テーマ：「侵略戦争が遺したもの

～戦後80年を迎えて～

※戦後80周年の中で、侵略の歴史をどうとらえてきたのか。在日としての視点で振り返る。

## 神奈川

### ●8・15 集会

- ・日時：8月9日(土)13：30
- ・場所：相模中央教会／オンライン併用
- ・テーマ：「丸木位里・丸木俊《原爆の図》から考える戦争と平和」
- ・講師：岡村幸宜さん（丸木美術館学芸員）

※1950年から32年をかけて15部に渡る「原爆の図」を書き続けてきた丸木位里さん、丸木俊さんの、それぞれの絵に込めた思いや、描かれた時代背景などを考察し、時代の変化や丸木夫妻の戦争への捉え方の変容について丁寧に語って下さいました。

## 関西

### ●関西地方連合社会委員会8・15集会

- ・日時：8月15日（金）14：00
- ・場所：神戸教会
- ・テーマ：「ヤマト〈の・が・は〉問題  
～コロナリズムとポジショナリティを自覚する～」
- ・話し：立田卓也さん
- ・6.23 ツアー感想：酒井紀世子さん

※いわゆる「沖縄の基地問題」は、沖縄の問題ではなく「ヤマト問題」。薩摩侵攻に始まり、米軍基地の押し付けを止められない中、今に至って、西日本を中心に軍事強化を進めている日本の政治、ヤマトの有権者の問題性を認識します。今般の排外主義に対する言葉より「差別の連鎖を止められるのは日本社会で多数派の日本人だけ（辛淑玉氏）」。そのためにまず必要なのは、連帯ではなく謝罪ではないでしょうか。

※集会後、三ノ宮駅近くでゴスペルを歌うひと時を持ちました。翌日祝園分屯地の現地視察を行いました。2日後の月曜日には弾薬庫建設が始まっ

てしまいました。

## 北九州

### ●バプテスト北九州地方連合平和集会・

- ・日時：2025年8月11日(月)13：00
- ・場所：バプテストシオン山教会、Zoom 併用
- ・テーマ：「忍耐と信仰」をもって

～堅く立ち、終わりなき自由への闘いを

・講師：藤田英彦さん（東八幡キリスト教会協働牧師）  
※前日に発生した線状降水帯による災害級の大雨で開催が危ぶまれる中、奇跡的に雨がやんで実現できた平和集会。翌日に96歳の誕生日を控えた藤田英彦さんが、60年にわたるヤスクニ闘争のご経験からお話しくくださった。講演は、事前に収録した36分ほどの動画を上映する形で行われ、その後、社会ヤスクニ委員会の三上渡委員長が藤田さんにインタビューし、続けて会場からの質疑応答がなされた。前日が大雨だったとはいえ、オンラインも合わせて50名の参加にとどまったのがもったいなく思える内容だった。



## 【新聞記事から2】

### ■8.15ルポ 靖国神社、「厳粛」と「喧噪」の一日

(毎日8/16)

80回目の終戦の日である15日、東京・九段北の靖国神社を訪れた。記者が目にしたのは厳粛と喧噪が入り交じった追悼の場だった。

朝から強い日差しが照りつけていた。午前7時、最寄りの地下鉄九段下駅から地上に出ると、「払拭 東京裁判史観」などと書かれた旗や日の丸を掲げた街宣車が並んでいた。自らの主張を刷り込んだビラを配る人たちの姿もあった。

境内では、参集殿に集団で入る制服姿の自衛官たちや、特攻服姿で日章旗を手にする人たちの姿が目飛び込んできた。夏休みのためか家族連れも多かった。参拝者は鳥居や拝殿の前で深々と頭を下げる。人混みの騒々しさはあるものの一部には厳かな空気が漂っていた。

午前11時過ぎ、参拝を終えた参政党の神谷宗幣代表が参集殿から姿を現すと、騒然とした雰囲気変わった。神谷氏は報道陣の取材に「国の指示もあったが、国のためにみんなを守るために戦い、尊い命を失った方々に感謝と追悼の気持ちを伝えたい。二度と日本が戦争の惨禍に遭わないように平和を守る政治をやりたいという思いを伝えた」と話した。…

正午、境内にいた参拝者が一斉に黙とうすると静まり返った。続いて、全国戦没者追悼式での天皇陛下のおことばがリアルタイムで境内に流れた。「戦後の長きにわたる平和な歳月に思いを致しつつ、過去を顧み、深い反省の上立って、戦禍に倒れた人々に対し、心から追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります」放送が終わると、どこからか「天皇陛下、バンザーイ」という声上がり、少なくとも参拝者が万歳をした。…

午後1時半、日本会議などで行く実行委員会が主催する「大東亜戦争終戦80年 追悼と感謝の集い」が境内で始まった。「君が代」斉唱の後、谷口智彦会長が「誇るに足る国を築いたと英霊に胸を張るためには私たちは道半ば。80年後も靖国の御社（みやしろ）は世界の政治、経済、軍事の指導者が訪ねて静かな祈りをささげる場として大切にされないといけない」とあいさつした。

(毎日8/16)

#### ■8・15閣僚ら靖国参拝 ～ 政教分離に抵触

…この日、石破茂内閣からは小泉進次郎農水相と加藤勝信財務相が参拝した。小泉氏は参拝後、「不戦の誓いと、国家のために命を捧げた方に対する礼を忘れないことは重要」と語った。

石破首相は参拝せず、自民党総裁として私費で玉串料を納めた。超党派の「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」に所属する衆参議員52人も集団で参拝した。自民党の他、日本維新の会、国民民主党、参政党、日本保守党など。今夏の参院選で躍進した参政党からは、神谷宗幣代表ら国会議員18人全員と地方議員が集団参拝した。この他、個別に自民党など数人の国会議員も参拝した。

靖国神社には、極東国際軍事裁判（東京裁判）でA級戦犯とされた人々も合祀されている。日本はこの判決をサンフランシスコ平和条約で受け入れている。閣僚や国会議員などの「国民の代表」がどのような思いを語ろうと、靖国神社への参拝や玉串料などの奉納は、「A級戦犯」とされた人々を神として崇拜し、侵略戦争を正当化することに直結する。さらに憲法が定める政教分離規定に抵触する。こうした人々は、自らの政治的アピールと引き換えに日本の国民の利益を大きく損なっていることを忘れてはならない。

この日、日本会議や英霊にこたえる会などによる「大東亜戦争終戦80年 追悼と感謝の集い」が参道で開催され、「数多の英霊に対し、心からの追悼と感謝の誠を捧げる」などとする声明文が採択された。参拝した議員の多くも同じ思いを述べている。

だが、彼らはこの「感謝」によって、望まない死を強い

られた人々の思いや日本の加害事実を捨象しているのではないか。

(社会新報8/22)

#### ■戦争を伝えること

戦争に関する話題が最近特に多く、つらくなります。小欄を読んでくださっている方から、お便りをいただいた。確かに意識して取り上げている。夏になると戦争ばかり扱う「8月ジャーナリズム」の典型なのかもしれない。じつは迷いもある。戦禍の話は一日のはじめに水を差さないだろうか、と。日々のニュースが森羅万象あまたあるなか、なぜ戦争を選択しているのか。理由はやはり戦後80年の節目の夏であり、世界で紛争が相次いでいるということに尽きる。本紙を含め、新聞はかつて戦意高揚の旗を振った。その歴史を小欄も省みなければならない。鬼籍に入って四半世紀になるジャーナリスト黒田清さんの姿勢にならうなら、命を奪う戦争を起こさせぬよう努めるのが記者の使命だと思う。80年前のきのう、留萌沖などで「三船遭難事件」が起きた。樺太からの緊急引き揚げ船3隻がソ連の潜水艦に攻撃され、1700人超が犠牲に。大半がお年寄りや女性、子どもだ。玉音放送から1週間、懐かしい故郷が間近であった。命日に合わせ留萌の寺院で慰霊祭が営まれた。参列者が目を閉じ静かに手を合わせる。遺族会事務局長の永谷操さんのあいさつを胸に深く刻んだ。「戦争だらけの世界ですが、事実を後世に伝えることが大切。毎日のくらしのなかで平和を訴えていきたい」

(北海道・卓上四季8・23)

#### ■さきの大戦で地上戦が行われた

町で2025年8月3日午後5時2分、喜屋武真之介撮影さきの大戦で地上戦が行われた沖縄の戦闘は1945年9月7日に公式に終結した。「沖縄慰霊の日」の6月23日は牛島満司令官らが自決し、組織的戦闘が終わったとされる。だが、その後も散発的な戦いは続いた。米軍と南西諸島の日本軍の間で降伏調印式がいまの沖縄市内で行われたのは、76日後だった。沖縄島の西にある久米島に「痛恨之碑」という碑がある。米軍は島に6月26日上陸した。山中に潜伏した日本軍の部隊が多く、住民を殺害する惨事がそれから起き、その犠牲者名を刻んでいる。4年前に久米島町は戦争記録を832ページに及ぶ町史にまとめ、「日本軍によって住民20名の尊い命が失われた」と記した。米軍と接触しただけで島民がスパイ視され、赤ちゃんを含む家族まで殺された。日本が降伏した8月15日以降も蛮行は続いた。「アメリカよりこっち（日本軍）が怖い」。町史に収録されている住民の証言は、理不尽な殺害への恐怖を伝える。沖縄戦終結の調印の場となった沖縄

市は9月7日を「市民平和の日」と定めている。「沖縄にとって極めて重要な日」との思いからだ。今年も平和をテーマに記念事業を行う。久米島町史の戦争関係年表は47年5月23日、山で拾った不発弾をさわっていた少年9人が爆死する痛ましい事故で終わっている。戦後80年の今年、島では殺害された住民の追悼集会在地元有志によって開かれた。不発弾処理で住民避難も行われている。今につながるあす「9・7」の重みを受け止めたい。

(毎日・余録9/6)

#### ■韓国人の靖国合祀 遺族が取り消し求めて再提訴

靖国神社に遺族の同意なしに合祀されている韓半島出身の軍人や軍属の遺族が、日本政府と靖国神社を相手取って合祀の取り消しを求める訴えを再び起こしました。

犠牲者の孫にあたるパク・ソンヨプさんら遺族6人は19日、「靖国神社に無断で合祀され、精神的な苦痛を受けた」として、東京地方裁判所に訴えを起こしました。パクさんの家族3人が1人当たり40万円、ほかの原告3人がそれぞれ120万円の損害賠償と合祀の取り消し、そして謝罪を求めています。

6人は「日本政府が戦没者の名簿を靖国神社に提供したため、無断で家族を合祀されて精神的な苦痛を受けた。政教分離を定めた憲法にも違反している」と主張し、国に賠償を求めるとともに、靖国神社には合祀の取り消しなども求めました。…直近では、日本の最高裁判所がことし1月、韓国人の遺族27人が合祀の取り消しを求めて2013年に起こした訴訟の上告審判決で、賠償を求めることができる期間が過ぎているとして上告を退け、原告の敗訴が確定しました。

(KBS9/22)

#### ■児童生徒に「君が代歌っているか」アンケート

沖縄・石垣市議会が実施求める決議可決

石垣市議会(我喜屋隆次議長)は24日の9月定例会最終本会議で、市内の児童生徒に国歌「君が代」を歌っているかなどを聞くアンケート実施を求める決議案を与党と一部中立の賛成多数(賛成14、反対7)で可決した。市教育委員会は「今後は教育委員に意見を聞いて対応する」

と、実施の判断を保留した。決議案は与党の友寄永三氏が提出。国歌斉唱は学習指導要領で小中学校での指導が明確に定められていると強調した。

求める調査は①国歌を知っているか②国歌を歌えるか③音楽の授業で国歌を習ったか④入学式や卒業式で国歌を歌っているか—の4項目。

友寄氏は保護者から子どもたちが国歌を十分に歌えていないとの意見が寄せられているとした上で、「現状を把握するため子どもたちの声を聞くことが不可欠。認識や習熟度を把握した上で今後の指導に生かしてほしい」と求めた。質疑で中立の内原英聡氏は「強制につながる」と懸念を示した。賛成討論で与党の高良宗矩氏は「歌いたくない子どもだけではなく、歌いたい子どもの多様性にも配慮すべきだ」と指摘。反対討論で野党の長浜信夫氏は「政治が公教育に介入することはあってはならない」と述べた。

(沖縄タイムス9/25)



沖縄：チビチリガマとその傍らに立つ金城実氏の「チビチリガマの歌」の歌碑

靖国神社問題特別委員会 **公開学習会のお知らせ** 2026年2月23日(月)

- 👉 テーマ：「新たな戦争準備と靖国神社」
- 👉 講師：齊藤小百合さん(恵泉女学院大学教授)
- 👉 会場：茗荷谷バプテスト教会+オンライン

- 👉 日時：2026年2月23日(月) 18:30~20:30
- 👉 詳しいことは、後日お知らせします。

「ヤスクニ通信」発行責任：日本バプテスト連盟 靖国神社問題特別委員会 委員長 大島博之  
〒336-0017 埼玉県さいたま市南区南浦和1-2-4 TEL 048-883-1091 FAX 048-883-1092